学生アンケートによる授業研究
―英語科目の場合―

杉　本　なおみ

1．調査の目的

英語教育の成否は学生の学習意欲によるところが大きい。そこで，学習意欲向上につながる要因の分析により，教育効果を高める方法を探るのが，今回の調査の目的であった。この調査は，英語教育運営委員会が1997年７月に英語科目受講学生を対象に行ったアンケートから得られたデータに基づいている。マークシートの読み取りに関してはメディア教育開発センターに依頼した。後述の相関係数の算出にあたっては，当該領域の専門家の協力を得た。考察は本稿執筆者が行った。

2．方法

1997年７月に，自由記述と４点法の２種類による調査を行った。本稿においては後者についての結果のみ報告する。

2.1　回答者

英語科目受講学生全員を対象に調査を行った。大半は一年生もしくは二年生で，平均年齢は19.03歳であった。回答者は文学部（英文学・日本文学），音楽学部（声楽・器楽・楽理），国際交流学部（国際交流）のいずれかに属する。

2.2　質問紙

「読む・Reading・Extensive Reading」，「書く・Writing」，「聞く／話す・Speaking」，「Presentation」，「Comprehension」の各領域ごとに５種類のアンケート用紙が用意された。すべて無記名回答である。各領域に共通の質問項目（例：総合的満足度）に続いて，領域別の質問（例：あがりの克服に授業がど

の程度役だったか）がなされた（付録の「質問項目一覧」を参照のこと）。各質問に対しては4点法(「もっともよくあてはまる」「ややあてはまる」「ややあてはまらない」「まったくあてはまらない」）で回答を求めた。

2.3 調査方法

調査は前期授業最終週に実施された。各担当教員が授業を20分程度早めに切り上げ，調査の目的について学生に説明した。回答の匿名性と秘密厳守，成績とは無関係であることを強調した後，教員は学生が記入を始める前に退室した。最後に回答を終えた学生がそのクラスのアンケート用紙を取りまとめ，回収場所まで持参した。すなわち，アンケート記入の場に教員がいないことで学生が自由に評価を行えるよう配慮した。

学生は英語科目を複数履修しているため，アンケートの回答も重複がある。インテンシブコースの学生は「reading」，「writing」，「speaking」，「presentation」，「comprehension」の5科目，スタンダードコースの学生は，「読む」，「書く」，「聞く／話す」と「extensive reading」の中から最高3科目，についてそれぞれ回答した。その結果，832通の回答が得られた。

3．分析

回答結果を分析した結果，ほとんどの項目において，学生の満足度の指標(総合的満足度，授業が楽しみ，このような授業をもっと，の3項目）との間の相関に有効値が得られた。本稿ではその中でも特に高い相関（$r = .500$以上）の得られた項目に限って報告する。

ここで留意すべき点が二つある。一つは相関と因果関係を混同してはいけないということである。今回の調査で得られた結果はあくまでも，質問項目間の相関関係を示すもので，因果関係を証明するものではない。例えば，「授業へは積極的に参加した」と「毎週授業に出席するのが楽しみだった」という2つの項目に高い相関関係がみられたとしよう。これを「授業が楽しみだったから，積極的に参加した」というように結論づけるのは早急すぎる。「積極的に参加できる場があったから授業が楽しみ」であったのかも知れない。今回の調査の性

質上，そのどちらが正しいかを特定することは不可能であるので，相関を因果関係と混同せずに結果を解釈することが重要である。

留意すべきもう一つの点は，今回の調査結果はすべて学生の主観に基づくものであるということである。教員の「学生の理解度に対する気配り」であるとか，「気軽に質問できるか」といった項目が含まれているが，これはすべて学生の側からみた教師像であり，必ずしも実際の教員の人格や教え方を忠実に反映していないかも知れない。このような調査方法を用いたのは，学習意欲と密接に関わっているのは学生自身の教室での体験であるという信念によるものだが，その結果が各教員の実像と混同されてはならない。

同様に，学生の学習行動に関する質問項目の答えも学生自身の自己評価であることに注意すべきである。これはあくまでも学生の主観であり，実際の行動を客観的方法で測定したものではない。

4．結果と考察

本調査結果の報告にあたっては，学生の学習意欲を向上させる要因に絞って論を進めたい。今回の質問項目のうち，以下の3問を学生の学習意欲を測定するものとした。(1)当該授業に対する満足度，(2)毎週どのくらいその授業を楽しみにしていたか，及び(3)この授業と同じ様な教え方をする授業を将来も履修したいと思うか，の3問である。(以下まとめて「学習意欲指標」と呼ぶ) この3問以外の質問項目は全て，授業構成・教授法，並びに自身の学習態度を評価する項目であった。これらのうち，本項では「学習意欲指標」と高い相関があったもの（これを仮に「学習意欲向上要因」と呼ぶ）について報告する。特に，学習領域別（「書く」・「読む」など）にみた要因と，領域に関係なく有効と思われる要因に分けて見て行きたい。

4.1　高い評価を得た教授法と授業構成：英語科目全体

本項では学習領域に関係なく，各領域に共通して見られた学習意欲向上要因について述べる。

4.1.1総合的満足度

この項目では，学生の当該授業に対する全体的な満足度を測定した。各

領域に共通してこれと高い相関が見られた項目は以下の３つであった：(1)授業構成，(2)学期を通じての授業進度，及び(3)教員が学生の理解度にどの程度気を配ったか。特に，授業進度に関しては５つの学習領域全てにおいて高い相関が得られた。授業構成と理解への気配りの２項目は，Comprehension 以外の領域において高い相関が得られた。従って，領域を超えて学生の満足度に影響を与える学習意欲向上要因はこの３つであると思われる。

4.1.2授業への期待

本項目は「この授業に出席するのが楽しみだった」という設問により，学生が毎回の授業にどれほど意欲的に望んでいたかを尋ねたものである。これとの間に高い相関がみられた項目は以下の３つである。(1)「私はこの授業に積極的に参加した」[Comprehinsion 以外の４領域]，(2)「この先生は学生の理解度に十分気を配った」[同上] (3)「授業の構成はよく工夫されていた」。[Comprehension と Presentation 以外の３領域]

この結果より，効果的な授業構成，学生の理解度に気を配る教員の姿勢，学生の積極的授業参加の３要因は，学生が毎回の授業を楽しみにする度合と密接な関連があると言えよう。

4.1.3将来の履修計画への影響

この項目は，今後学生が当該授業と同様の教え方をする授業を受講したいかについて問うたものである。英語科目は１，２年次の必修科目であることから，学生にとって大学で受ける最初の授業であることが多い。すなわち，英語科目での経験は，学生の大学の講義に対する考え方やその後の履修計画に大きな影響を及ぼす可能性がある。ここでは２項目との間に高い相関がみられた：(1)「この先生は学生の理解度に十分気を配った」[Reading／書くと Comprehension 以外の３領域] (2)「授業の構成はよく工夫されていた」[Comprehension 以外の４領域]

従って，授業構成と教員の配慮の２要因は，学生が今後どのような形態の講義を履修するかという判断と大きな関わりを持つと言えよう。

4.1.4その他にみられた高い相関関係

「授業の構成はよく工夫されていた」と「学期を通じてのこの授業の進み具合は適切だった」の２項目の間に高い相関がみられた。後者は，教師が毎回の授業の90分をどのようなペースで進めたかではなく，学期を通じてどのような進度で授業が展開したかを問うものである。これにより，毎回の授業の構成と，学期を通じての進度には関連性があることが伺える。

4.2　高い評価を得た教授法と授業構成：科目別

前項で述べた全学習領域共通の要因に加え，本項では領域別にみた学習意欲向上要因を報告する。

4.2.1「Reading・Extensive reading・読む」

英語の読解に関する領域においては，できるかぎり多種多様な教材を用いることが指導法の鍵と思われる。当該授業で使用した教材の多様性を高く評価した学生は，同時に教材が興味の持てる内容であったと評価している。この要因は学生が当該授業を楽しみにしていたかという要因とも高い相関を示しているので，教材の多様性は間接的に学生の学習意欲に関連していると結論づけても早急にすぎることはないであろう。また，教材の多様性は，授業の構成に工夫がみられたという項目との間にも高い相関がみられた。授業構成の工夫は，教員が学生の理解度に気を配ったか，という要因にも高い相関があるので，学生の学習意欲に密接に関連すると思われる。

この領域において，教材の多様性以外で学生の学習意欲と高い相関関係がみられた要因は，「この授業は学生の参加が主体であった」，「毎回授業の目的がはっきり明示された」などの項目であった。

この結果から考えられることがいくつかある。まず第一に，英語講読の授業においては従来の訳読方式から離れることが大前提と思われる。学生の能力や興味が多様化している現在，以前のように一冊の物語を，毎週指名した学生に訳させながら一年かけて読み通すというのでは，学生の学習意欲を維持することは難しい。また，教員が一方的に講義するだけという受け身の授業には，もはや学生は魅力を感じていないことが伺える。

反対に，教材の内容・目的に幅を持たせることにより，学生の関心をそ

らすことなく効果的な授業を展開する可能性が生まれる。もちろんこれは，学生の興味に迎合して安易な題材を選択するということではない。さらに，学生が興味を持つ領域であっても，その中でさらに高い学習効果が得られる教材を選択・開発すべきなのは言うまでもない。

さらに，毎回の講義や課題ごとの目的を明示し，「教壇の向こうの人」にならないように，学生との対話を心がけることも肝要に思われる。

4.2.2「Writing・書く」

この学習領域においては，課題に関する明確な指示が最も重要であるように思われる。当該授業において課題の指示が明確だと回答した学生の多くが，同時に授業に対する総合的満足度を表明し，自分自身も積極的に授業に参加したと回答した。一般に日本人は明文化された規則に安堵感を覚え，一定のルールに沿って進むことを好むとされているが，学習場面においては一層その要求が強くなるのかも知れない。特に授業中に行われる英作文の課題については，指示内容がわからないと授業参加もままならない，という現状があるように見受けられる。特にフェリス女学院大学のように，英作文の授業の多くが外国人教員によって英語で行われている場合には，学生の側に指示がうまく伝わらない事態も起こりうる。学生の習熟度によっては，英語で指示を与える際に口頭での説明に加え，板書する，プリントを配布するなどの対策を講じる必要があるかも知れない。

英作文の授業においても，「読む」授業同様，学生の積極的参加を促すような授業構成が重要であることがわかった。そのためには課題の指示を明確にし，不安を取り除く必要がある。さらに課題を理解しているかどうかに対する気配り・確認や，学生の能力に応じた授業進度の設定などが教員の側に要求されているように思われる。

4.2.3「Speaking・聞く／話す」

会話力やリスニング力の向上を目的とするこの領域では，２つの学習意欲向上要因がみられた。まず第一に，「この先生は学生が発言しやすいよう配慮していた」という項目は，学習意欲指標３要因すべてと高い相関がみられた。この項目はさらに，以下の２要因とも高い相関関係にあった：（１）

「学生は皆平等に授業に参加していた」（2）「この先生は学生の理解度に十分に気を配る」。すなわち，スピーキング関連の授業においては，教員側の働きかけと学生の期待度の間に深いつながりがあるように思われる。

第2番目の項目，「授業中何が起きているのかわからない時，気軽に先生に尋ねられた」は，学習意欲指標のうちの2つと高い相関関係にあった(総合的満足度と期待度)。さらに，この要因は，以下の項目とも密接な関連がみられた：(1)学生の理解度に気を配る，(2)学生の主体的授業参加，(3)学生が発言する機会が十分にあった，(4)課題の多様性。

これらの結果をまとめると次のようになる。まず第一に，授業中のアクティビティや課題に幅を持たせる教員は，同時に「気配りがある」「学生の参加を促す」「声をかけやすい」と学生に認識されている。第二に，こういった教員側の態度は，学生の主体的かつ平等な授業参加と深い関係があるように思われる。インテンシブコースで習熟度の高いクラス(E，Hなど)において，「話す英語」が得意な学生（帰国子女など）とそうでない学生の授業中の発言に偏りがみられたり，その結果教室運営が難しくなったりする例を耳にする。こういった意味でも，どんな学生も発言しやすい授業構成・雰囲気作りが，この領域での効果的な指導につながると考えられる。さらに，前期は特に授業進度に注意し，学生の得手・不得手を考慮して種々の課題を用意することも望ましい。

4.2.4「Presentation」

これは，インテンシブコースの中でのみ展開されている科目である。主に英会話力の向上を目指す「聞く・話す」「speaking」に比べ，英語での口頭発表能力の開発を目的とした科目である。このプレゼンテーション力の向上が，この領域における最大の学習意欲向上要因と思われる。この項目は，学習意欲指標の3つ全てと高い相関関係にあった。

授業の理念通りの展開というのは，いわば教員として当然のことであり，それが学生の意欲向上に関係が深いというのはいささか奇異に映るかも知れない。しかしこれは，「読む」「書く」などに比べて新しく，教員の側にも授業計画に試行錯誤の多いプレゼンテーションの特徴の現われとみるこ

ともできる。すなわち，教員により授業内容にばらつきがみられ，真のプレゼンテーション能力を養成するような内容のものだけが学生の意欲と密接に関連していたと考えられる。

この，「英会話から一歩進んだプレゼンテーション力」の項目は前述の学習意欲指標以外の要因とも高い相関を示した。「あがり症の克服に役立った」「授業の構成は工夫されていた」などがその主なものである。「教員が学生の理解度に気を配ったか」という項目は，３つの学習意欲指標並びに「あがり症の克服」と高い相関関係がみられた。

このような教師側の資質や行動に加え，授業構成面でも２つの重要な学習意欲向上要因が現われた。一つは，前述の各領域と同じように，教材の多様性である。この要因は，３つの学習意欲指標に加え，「あがり症の克服」の項目との間にも高い相関を示した。さまざまなタイプのプレゼンテーションの経験を通じて，学生はあがり症を克服して行くのかも知れない。

その他の学習意欲向上要因には「授業進度」と「毎回の課題の明示」があった。「読む」「書く」などの科目に比べ，プレゼンテーションという領域は学生にとっても経験が浅い。従来型の科目に比べ目的や評価方法にもなじみがなく，学生も不安を覚えるかも知れない。英語に限らず口頭発表能力全般がないがしろにされがちな日本の教育を受けてきた学生にとっては，人前での発表自体が苦痛に感じられるのであろう。そこで，授業進度の適切さをこまめに確認し，学生の習熟度に合わせる，毎回の課題（スピーチ・ディベートなど）の目的と評価方法を明確に提示するなどの対応が望まれるところである。

さらにこの領域においては，学生から見た「教員が教えることを楽しんでいたかどうか」の評価が学生の意欲指標と密接な関わりを見せたことに着目したい。これは教員自身が本当にこの科目を教えることを楽しんでいたかどうかではなく，あくまでも学生の受けた印象である。これが，学生の総合的満足度だけでなく，「授業進度は適切だった」「授業内容に工夫がみられた」「授業目的は明示された」「英会話より一歩進んだ英語力がついた」「教員は学生の理解度に気を配った」「さまざまなタイプのプレゼンテ

ーションを経験した」の6項目と高い相関をみせたことは特筆すべきであろう。

4.2.5「Comprehension」

この科目も，インテンシブコースでのみ展開されているものである。総合的英語力の向上を目的に，日本人と外国人の教員がペアになって教えている。この科目が高校などで行われているティームティーチングと異なるのは，週ごとに設定されたテーマを，まず日本人教員が導入し，その後別の曜日に外国人教員がその定着・応用を図るという点である。つまり，2人の教員が同一クラスを担当するという形ではあるが，一緒にその場に居合わせるという形態はとらない。従って，教員間の連携の成否が，教育効果に如実に表われる科目である。

この特性は，今回の調査結果にも反映されている。「教員間の連絡はうまくとれていた」という項目は，重要な学習意欲向上要因であっただけでなく，「毎回の授業の目的は明示された」という項目とも高い相関関係をみせた。言い替えれば，教員間の連絡と毎回の授業計画の明確さには深い関わりがあることがわかる。

この他の学習意欲向上要因としては，授業進度が挙げられる。この項目は学習意欲指標のうちの2つ，「総合的満足度」と「授業構成」と高い相関関係をみせた。また，これに加えて，「教え方がわかりやすい」という項目は，「教員が学生の理解度に気を配ったか」「わからないことがあった時気軽に質問できたか」の2項目とも高い相関関係がみられた。このことから，このような新しい形態の科目では，特に授業の進度や学生の理解度に気を配って授業計画を行う必要性があることがわかる。

4.2.6英語インテンシブコース全般

「Comprehension」科目はインテンシブコースの学生しか受講していないことから，この科目についての質問紙の中に，インテンシブコース全般に関する質問を含めた。これは「インテンシブ・コースを選択して英語力が身についた」，「インテンシブ・コースの内容に満足している」，「インテンシブ・コースを後輩にも勧めたい」の3項目である。

いずれの項目も互いに高い相関をみせた。すなわち，英語力向上が満足度に比例し，翻って後輩に勧めるかという要因にも関係してくる。履修に関する先輩や友人の助言は，教員のそれより大きな影響力を持ちうる。その認識に基づいた上で，上記の結果を真摯に受け止め，単にコースを設置するだけでなく，それが真の英語力向上に役立つものであるかという確認を日々怠らずに行うことが不可欠である。また，この「英語力が身についた」という項目は，学生の自覚に基づく評価である。従って，真の英語力向上を心がけるのに加え，学生がその実感を得られる場を提供することが今後の重要な課題と言えるかも知れない。

5．おわりに

今回の調査結果において特に興味深いのは，読む・書くなどの科目と話す・プレゼンテーションなどの科目では学生の意欲を向上させる要因が異なった点であろう。

「読む」「書く」などの領域は高校までの英語教育にも存在するので，授業内容に対する学生の要求度が高くなる。また，高校とは違う教え方を求める傾向がみられる。

一方，「プレゼンテーション」「スピーキング」などの科目においては，授業内容よりも教師の資質や教え方のほうが，学生の学習意欲と深い関連をみせた。この点に関しては，二つの要因が考えられる。

一つは，口頭表現に対する日本文化特有の反応である。高校までの教育（英語に限らず国語でも）においてこういった技能が重要視されていないため，授業内容に関して何を要求すべきか学生自身自覚していない場合が多い。さらに未知の領域ということで，苦手意識や恐怖心が強い。そのため授業内容より教え方，教師の資質といったものに対する要求が高くなるのではないか。

もう一つは，本学学生の英語学習経験の多様性と本学授業の特色の関係である。帰国子女や私立高校出身者のような「生の英語」に慣れている学生と，地方や公立高校出身者のように「聞く・話す」訓練をあまり受けてこなかった学生の間にある溝は，特に(外国人教員の担当が多い)「プレゼンテーション」「ス

ピーキング」などの科目において顕著である。その心理的不安を少しでも軽減しようと教師の資質に依存するのではないかとも考えられる。

今回の調査は初めての試みということもあり，不十分な点も多かった。将来的には，以下の点に関してさらに一歩踏み込んだ調査が必要と思われる。まず，「読む」関連の授業においては，学生の関心を集める教材の特徴について探る。次に「書く」関連の授業においては何が学生にとっての「明確な指示」にあたるのか調査する必要がある。「話す」関連の科目では，質問・発言しやすい雰囲気とはどのようなものかに関して調べる必要があろう。また「プレゼンテーション」科目では，英語力や背景の異なる学生全てに合うような授業進度を検討する。最後に「コンプリヘンション」に関しては，ティームティーチング科目の特徴に関して，さらなる研究が必要であると思われる。

学生アンケートによる授業研究：英語科目の場合

付録：各教科別質問項目

全教科共通質問項目

1．授業には総合的に満足している。

2．学期を通じてのこの授業の進み具合は適切だ。

3．授業の構成はよく工夫されている。

4．この授業のような教え方の授業を他にもとってみたい。

5．この授業における成績評価の方法はきちんと説明された。

6．学期中，テストや課題を通じて，自分がだいたいどの位の成績をとるか予想がついた。

7．成績物が返された時，どうして自分がその成績をとったのか理解できた。

8．毎回授業の目的がはっきり明示される。

9．この先生は学生の理解度に十分に気を配る。

10．この授業に出席するのが楽しみだ。

11．私はこの授業に積極的に参加している。

科目別質問項目：読む・Reading・Extensive Reading

1．質問やわからないことがあった時，気軽に尋ねられる。

2．この授業は学生の参加が主体であった。

3．この授業ではさまざまな英文の読み方を学ぶ機会があった。

4．教材となる英文は興味のもてるものであった。

科目別質問項目：聞く／話す・Speaking

1．学生は皆平等に授業に参加している。

2．この先生は学生が発言しやすいよう配慮している。

3．授業中何が起きているのかわからない時，気軽に先生に尋ねられる。

4．学生が発言する機会が十分にある。

科目別質問項目：書く・Writing

1．この授業ではさまざまなタイプの英作文をする。

2．英作文の課題が出た時，何をすればよいか，どう書いたら良いか，明確に伝わっている。

3．提出した課題はすぐ返却される。

4．提出した課題に対して十分なコメントが返ってくる。

科目別質問項目：Presentation

1．学生は皆平等に授業に参加している。

2．この授業では，ただ英語を話すことから一歩進んだ英語力がつく。

3．この授業はさまざまなタイプのプレゼンテーションの勉強になる。

4．この授業は人前で話す時あがらないようにする練習になる。

5．この先生は学生が発言しやすいよう配慮している。

6．先生は教えることを楽しんでいるようだった。

科目別質問項目：Comprehension

〈インテンシブ・コース全体についてお尋ねします〉

1．インテンシブ・コースを選択して英語力が身についた。

2．インテンシブ・コースの内容に満足している。

3．インテンシブ・コースを後輩にも勧めたい。

〈コンプリヘンションについてお尋ねします〉

5．先生方のあいだの連絡はよく取れているようだ。

〈X先生についてお尋ねします。〉

6．先生の教え方はわかりやすい。

7．先生は学生の理解度に十分に気を配る。

8．質問やわからないことがあった時，気軽に尋ねられる。

〈Y先生についてお尋ねします。〉

9．先生の教え方はわかりやすい。

10．先生は学生の理解度に十分に気を配る。

11．質問やわからないことがあった時，気軽に尋ねられる。

表　相関値の高かった項目

科目名〈読む・Reading・Extensive Reading〉

総合的満足度－授業が楽しみ（.646）

総合的満足度－工夫された授業構成（.639）

総合的満足度－もっとこういう授業を（.630）

総合的満足度－授業進度（.583）

総合的満足度－学生の理解度への気配り（.540）

総合的満足度－興味のもてる教材（.513）

授業が楽しみ－もっとこういう授業を（.661）

授業が楽しみ－気軽に質問できる（.569）

授業が楽しみ－工夫された授業構成（.564）

授業が楽しみ－積極的な授業参加（.557）

授業が楽しみ－学生の理解度への気配り（.538）

授業が楽しみ－興味のもてる教材（.510）

もっとこういう授業を－工夫された授業構成（.635）

工夫された授業構成－授業進度（.555）

工夫された授業構成－授業目的の明示（.527）

工夫された授業構成－学生の理解度への気配り（.530）

工夫された授業構成－課題・教材の多様性（.512）

学生の理解度への気配り－気軽に質問できる（.562）

課題・教材の多様性－興味のもてる教材（.516）

科目名〈書く・Writing〉

総合的満足度－もっとこういう授業を（.697）

総合的満足度－授業進度（.678）

総合的満足度－工夫された授業構成（.675）

総合的満足度－学生の理解度への気配り（.631）

総合的満足度－授業が楽しみ（.626）

総合的満足度－課題の指示が明確（.566）
授業が楽しみ－もっとこういう授業を（.715）
授業が楽しみ－学生の理解度への気配り（.582）
授業が楽しみ－積極的な授業参加（.562）
授業が楽しみ－工夫された授業構成（.515）
もっとこういう授業を－工夫された授業構成（.652）
もっとこういう授業を－授業進度（.544）
もっとこういう授業を－学生の理解度への気配り（.526）
課題の指示が明確－学生の理解度への気配り（.572）
課題の指示が明確－積極的な授業参加（.513）
学生の理解度への気配り－工夫された授業構成（.526）
学生の理解度への気配り－授業目的の明示（.522）
工夫された授業構成－授業進度（.645）

科目名〈聞く／話す・Speaking〉
総合的満足度－授業が楽しみ（.695）
総合的満足度－もっとこういう授業を（.680）
総合的満足度－工夫された授業構成（.659）
総合的満足度－学生の理解度への気配り（.553）
総合的満足度－授業進度（.545）
総合的満足度－学生が発言しやすいように配慮（.541）
総合的満足度－気軽に質問できる（.503）
授業が楽しみ－気軽に質問できる（.619）
授業が楽しみ－積極的な授業参加（.609）
授業が楽しみ－学生の理解度への気配り（.593）
授業が楽しみ－学生が発言しやすいように配慮（.575）
授業が楽しみ－工夫された授業構成（.553）
もっとこういう授業を－工夫された授業構成（.592）
もっとこういう授業を－学生の理解度への気配り（.520）

もっとこういう授業を－学生が発言しやすいように配慮（.513）

工夫された授業構成－授業進度（.605）

学生の理解度への気配り－学生が発言しやすいように配慮（.679）

学生の理解度への気配り－気軽に質問できる（.616）

学生の理解度への気配り－課題・教材の多様性（.531）

積極的な授業参加－気軽に質問できる（.507）

学生の平等な授業参加－学生が発言しやすいように配慮（.537）

学生が発言しやすいように配慮－課題・教材の多様性（.659）

学生が発言しやすいように配慮－気軽に質問できる（.644）

気軽に質問できる－課題・教材の多様性（.562）

科目名〈Presentation〉

総合的満足度－授業進度（.736）

総合的満足度－もっとこういう授業を（.701）

総合的満足度－授業が楽しみ（.646）

総合的満足度－工夫された授業構成（.643）

総合的満足度－学生の理解度への気配り（.640）

総合的満足度－英会話より進んだ英語力（.594）

総合的満足度－授業目的の明示（.571）

総合的満足度－課題・教材の多様性（.555）

総合的満足度－教員が教えることを楽しんでいる（.550）

総合的満足度－あがりの克服（.546）

総合的満足度－積極的な授業参加（.523）

授業が楽しみ－課題・教材の多様性（.592）

授業が楽しみ－積極的な授業参加（.576）

授業が楽しみ－英会話より進んだ英語力（.572）

授業が楽しみ－学生の理解度への気配り（.529）

授業が楽しみ－授業進度（.522）

もっとこういう授業を－授業が楽しみ（.659）

もっとこういう授業を－授業進度（.648）
もっとこういう授業を－工夫された授業構成（.610）
もっとこういう授業を－英会話より進んだ英語力（.555）
もっとこういう授業を－学生の理解度への気配り（.537）
もっとこういう授業を－課題・教材の多様性（.533）
もっとこういう授業を－授業目的の明示（.514）
あがりの克服－課題・教材の多様性（.592）
あがりの克服－学生の理解度への気配り（.529）
英会話より進んだ英語力－あがりの克服（.603）
英会話より進んだ英語力－工夫された授業構成（.534）
英会話より進んだ英語力－学生の理解度への気配り（.507）
英会話より進んだ英語力－教員が教えることを楽しんでいる（.501）
教員が教えることを楽しんでいる－学生の理解度への気配り（.606）
教員が教えることを楽しんでいる－工夫された授業構成（.529）
教員が教えることを楽しんでいる－授業目的の明示（.521）
教員が教えることを楽しんでいる－授業進度（.515）
教員が教えることを楽しんでいる－課題・教材の多様性（.513）

学生の理解度への気配り－授業進度（.594）
学生の理解度への気配り－工夫された授業構成（.587）
学生の理解度への気配り－授業目的の明示（.575）
学生の理解度への気配り－課題・教材の多様性（.529）
工夫された授業構成－授業進度（.689）
授業目的の明示－授業進度（.616）
授業目的の明示－工夫された授業構成（.613）
授業目的の明示－課題の評価が理解できる（.570）
課題の評価が理解できる－成績評価方法の明示（.523）

学生アンケートによる授業研究：英語科目の場合

科目名〈Comprehension〉

総合的満足度－授業進度（.549)

工夫された授業構成－授業進度（.548)

教師間の連絡－授業目的の明示（.519)

わかりやすい教え方－学生の理解度への気配り（.751)

わかりやすい教え方－気軽に質問できる（.688)

学生の理解度への気配り－気軽に質問できる（.746)

科目名〈インテンシブコースについて〉

総合的満足度－後輩にも勧めたい（.695)

総合的満足度－英語力向上（.552)

英語力向上－後輩にも勧めたい（.513)